

大学と企業などとの連携による 社会人教育推進の事例紹介

2025年2月17日

早稲田大学

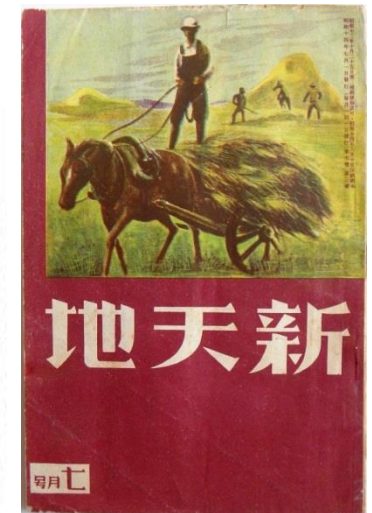
社会人教育事業室長 / 商学学術院教授

守口 剛

はじめに

早稲田大学の「社会人教育」の歴史（1）

◆ 「早稲田講義録」



- － 創立から4年後の1886年より発行
- － 全国津々浦々、海外にも送り届けられた
- － 1886年から70年間で、200万人を超える購読者
- － 受講者には、早稲田大学第4代総長・田中穂積、歴史学者・津田左右吉、政治家・田中角栄ら

早稲田大学の「社会人教育」の歴史（２）

◆ 「巡回講話」



- －教員が全国各地へ赴いて講義
- －1893年より開始。学問の普及につとめる

現在の取り組み

大学として取り組む意義

- －生涯学習の必要性に資する社会貢献的側面
 - －多様な学生の受け入れによる学習環境への好影響
 - －早稲田大学校友の拡大
 - －大学財政への貢献 など
-

社会人教育事業の沿革

- 1979年 エクステンション事業準備室開設
- 1981年 エクステンションセンター発足
- 2012年 Vision 150 の社会人教育の拡充のプロジェクトで、2032年までに年間のべ5万人(その後8万人に上方修正)のノンディグリー受講生という目標を設定
- 2017年 社会人教育事業室設置
- 2017年 ファイナンス研究センターとWBS研究センターを土台として早稲田大学ビジネス・ファイナンス研究センター発足
- 2018年5月 早大初の履修証明プログラム「21世紀のリーダーシップ開発」開始、翌月「スマートエスイー」開始
- 2022年 「早稲田マーケティングカレッジ」など3つの履修証明プログラムを社会人教育事業が開始
- 2025年 早大全体で9つの履修証明プログラムを運営

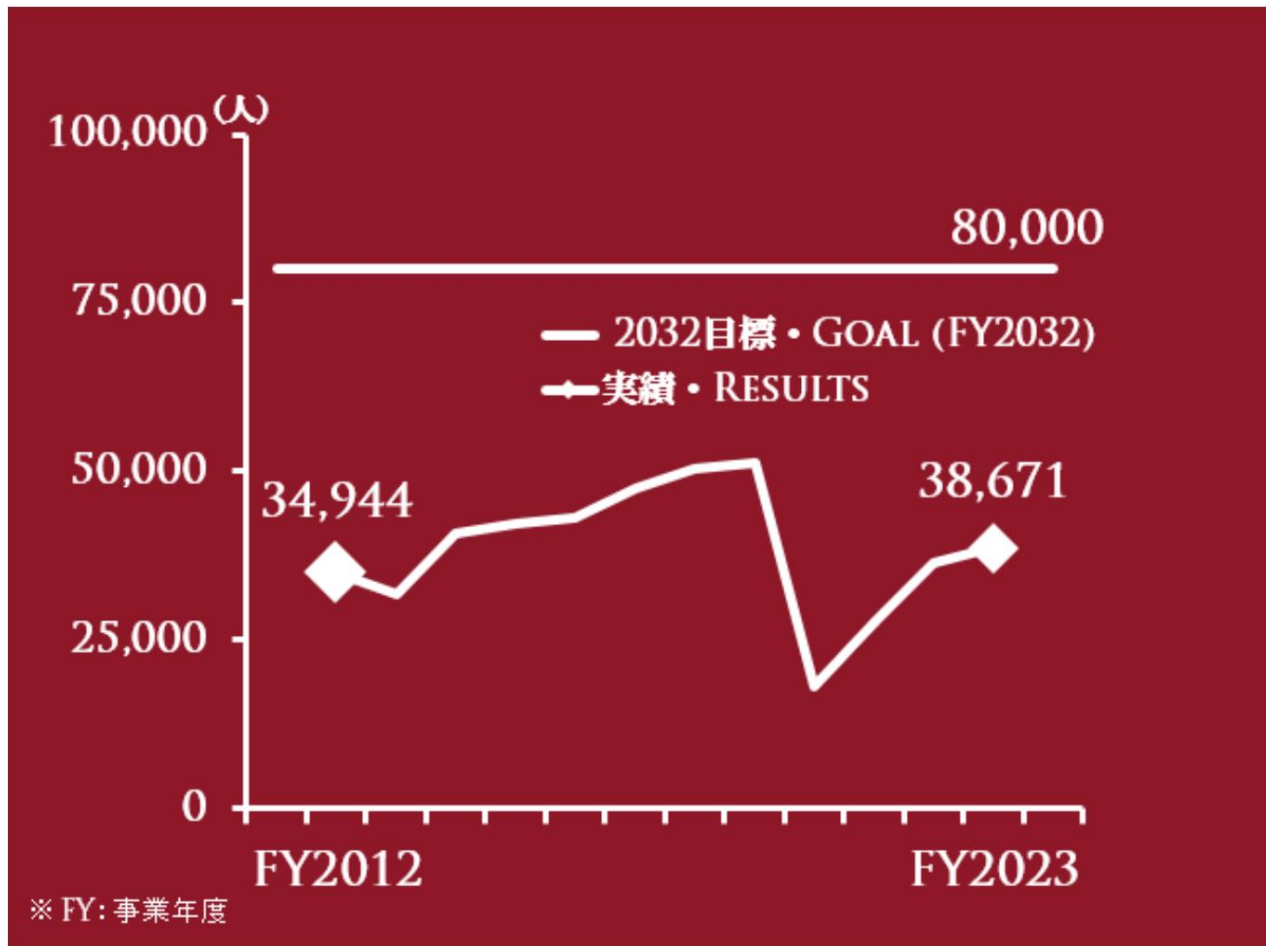
* ノンディグリー教育の年間延べ受講者数＝約3.9万人(2023年度)

社会人教育事業の沿革

- 1979年 エクステンション事業準備室開設
- 1981年 エクステンションセンター発足
- 2012年 Vision 150 の社会人教育の拡充のプロジェクトで、2032年までに年間のべ5万人(その後8万人に上方修正)のノンディグリー受講生という目標を設定
- 2017年 社会人教育事業室設置
- 2017年 ファイナンス研究センターとWBS研究センターを土台として早稲田大学ビジネス・ファイナンス研究センター発足
- 2018年5月 早大初の履修証明プログラム「21世紀のリーダーシップ開発」開始、翌月「スマートエスイー」開始
- 2022年 「早稲田マーケティングカレッジ」など3つの履修証明プログラムを社会人教育事業が開始
- 2025年 早大全体で9つの履修証明プログラムを運営

* ノンディグリー教育の年間延べ受講者数＝約3.9万人(2023年度)

早稲田大学ノンディグリー教育の延べ受講者数推移

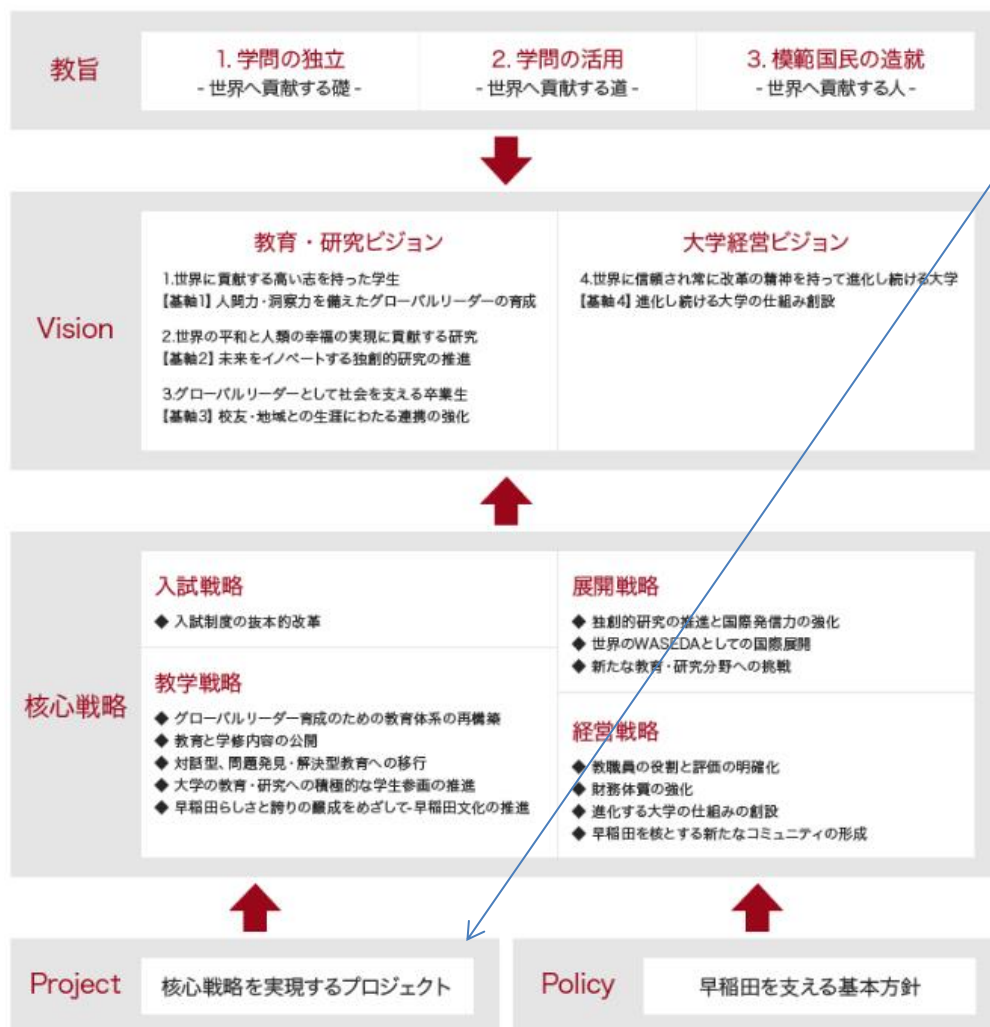


出典: 早稲田大学Webサイト

<https://www.waseda.jp/inst/vision150/infographics/2906>

現在の早稲田大学の社会人教育への取り組み

Vision150：社会人教育の拡充 P J



核心戦略

入試戦略

展開戦略

経営戦略

教学戦略

- ◆ 教育システム改革PJ
- ◆ 人間的力量の増進PJ
- ◆ 奨学金制度設計PJ
- ◆ 海外留学促進PJ
- ◆ 留学生受入促進PJ
- ◆ 教育制度改革PJ
- ◆ 社会人教育プログラムの拡充PJ

社会人教育を充実させ、国内外の経済界、官界等を対象とした教育および生涯教育を充実させる。特に、学術院の枠を超えた知的資源ならびに人的ネットワークを活用して個別ニーズに則した展開を図る。

早稲田大学の履修証明プログラム

- 早稲田リーダーシップカレッジ
 - 早稲田マーケティングカレッジ
 - 早稲田公共政策カレッジ（25年4月開始）
 - データサイエンス実践講座
 - スマートエスイー IOT/AIコース
 - スマートエスイー DXコース
 - DX人材育成プログラム（北九州キャンパスで実施）
 - キャリア・リカレント・カレッジ
 - ライフ・リデザイン・カレッジ
-

早稲田大学の履修証明プログラム

- 早稲田リーダーシップカレッジ
 - 早稲田マーケティングカレッジ
 - 早稲田公共政策カレッジ（25年4月開始）
 - データサイエンス実践講座
 - スマートエスイー IOT/AIコース
 - スマートエスイー DXコース
 - DX人材育成プログラム（北九州キャンパスで実施）
 - キャリア・リカレント・カレッジ
 - ライフ・リデザイン・カレッジ
-



スマートエスイー：スマートシステム＆サービスおよび
DX推進を担う人材の産学連携育成

Smart Systems and Services innovative professional Education program

Recurrent Education and Research Program of IoT, AI, and DX

IoT・AI・DXリカレント教育と関連研究・社会展開

ニュース
News

スマートエスイーに
ついて
About
▼

IoT/AIコース
Curriculum IoT/AI
▼

DXコース
Curriculum DX
▼

オープン科目
Curriculum Open

コンソーシアム
Consortium
▼

公開資料・報道一覧
Documents

早稲田大学 履修証明プログラム

早稲田マーケティングカレッジ 一次世代のマーケティングを学ぶ総合講座

Waseda Marketing College, Certificate Program

2025年4月開講 開講期間：2025年4月12日（土）～2025年8月2日（土）

説明会開催情報 →

パンフレットをダウンロード ↓

(ご参考：2024年10月開講分 パンフレット) ↓

WASEDA Marketing College, Certificate Program



講座概要



講座の特徴



講師陣



カリキュラム・時間割



募集概要

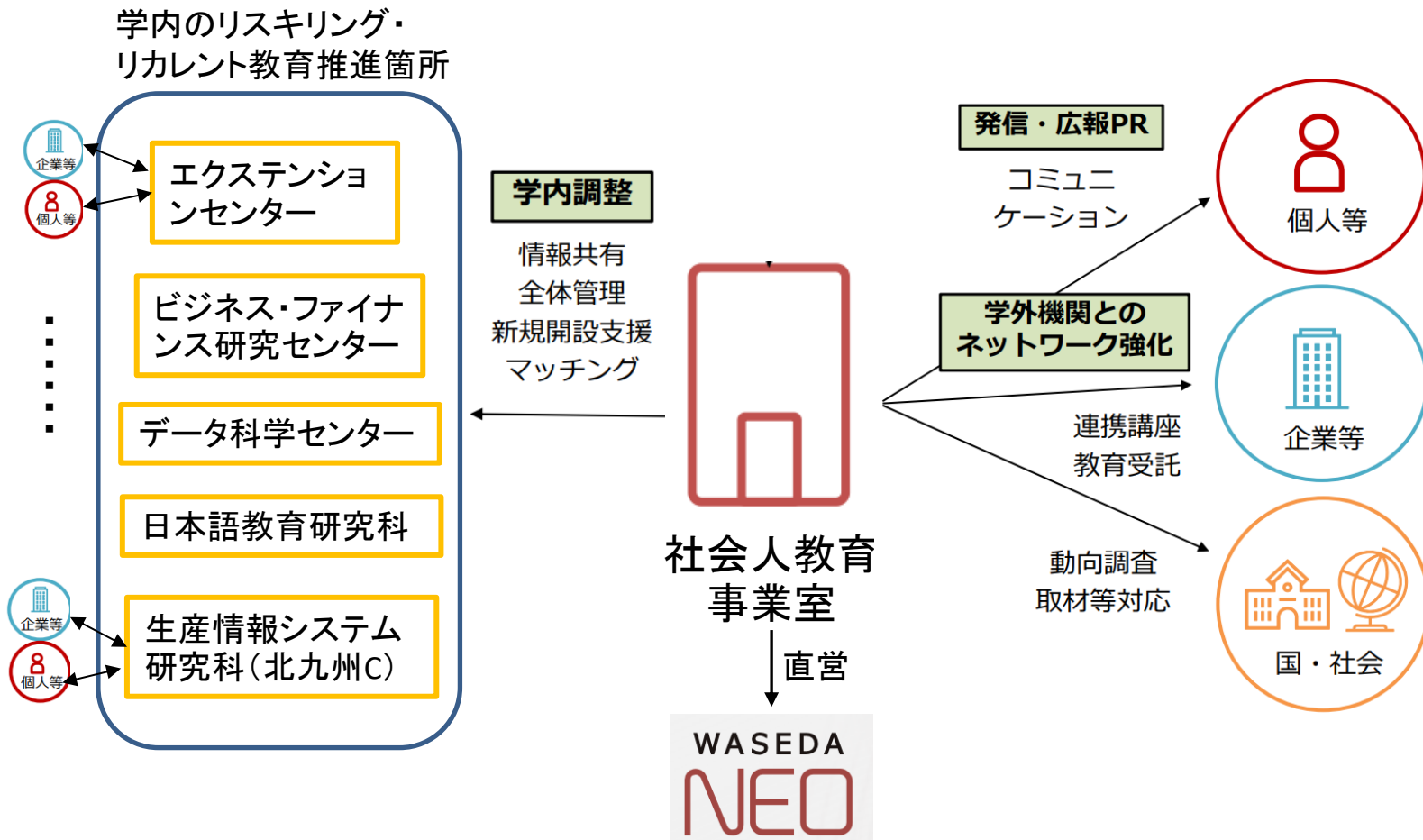


お問い合わせ



組織体制

学内体制



社会人教育事業室の主な業務内容

＜2017年4月28日経営執行会議＞“事務組織改組の件”より

「社会人教育の新規事業に関する企画・立案、学内調整、営業活動、公開講座・科目等履修生に係る事業推進およびWASEDA NEOに関する業務」

①WASEDA NEO事業の推進

- －社会人向け講座（主としてビジネスパーソンを対象）の企画・運営
- －事業企画、広報、経理、日本橋キャンパス管理、総務、システム等の事務業務

②全学の社会人教育プログラムの推進

- －全学の社会人教育に関する情報発信
- －各箇所で開催する社会人教育プログラムの管理・調整 など

企業との連携、プログラムの 横展開などの事例

プログラム設計時における連携の事例（１） ：スマートエスイー

- プログラム開発時に、開発に関与した教員などの知り合いの企業・団体へのニーズ調査を実施した（約70社に配布、47社から回答）。
 - 上記調査により、受講の受け入れ基準や求める人材像、教育方法、受講料などに関する要望・意見を収集した。
 - その結果を踏まえ、具体的なカリキュラム設計、科目構成、教育手法の設計を行った。
-

プログラム設計時における連携の事例（２） ：早稲田マーケティングカレッジ

- プログラム開発時に、一般社団法人マーケターキャリア協会、公益社団法人マーケティング協会、株式会社ナノベーションの協力を得た。
 - プログラム全体のコンセプト策定、カリキュラム設計、実務家講師の人選などに関してさまざまな議論を行い、実務家のニーズに合致するプログラム設計につながった。
 - 上記企業・団体にはプログラムの共催、協力を続けてもらっており、毎年2回（春期、秋期）のプログラムが終了するごとに、内容の見直しと改善のための議論を行っている。
-

プログラム内容に関する連携の事例 ： 早稲田マーケティングカレッジ

- 各回のプログラムにおいて、企業の協力によるプロジェクト学習（PBL）を取り入れている。これまでの協力企業は、味の素(株)、サントリー(株)、カゴメ(株)など。
 - プログラムの初日に、協力企業が「（当社の）現在のマーケティング課題とその背景」を説明し、受講者は5人程度のグループで学期を通じて課題に取り組む。
 - プログラム最終日に、受講者グループが課題解決のためのマーケティング計画を発表し、協力企業と担当教員が講評とアドバイスを行う。
-

プログラムの横展開の事例（１）

：スマートエスイー

- 特定企業向けのカスタマイズ
 - 本プログラムを基礎としたカスタマイズコースを、特定企業向けに提供している。
 - 例えば、某大手電気機器メーカー向けのカスタマイズ研修を、年間4回、平日に実施しており、各回の講義は2.5時間の構成となっている。
 - 本プログラムの各科目の履修時間は6～12時間であるが、それを2.5時間で実施するにあたり、各科目のエッセンスを凝縮した内容をカスタマイズして提供している。
 - 地域展開でのカスタマイズ
 - 地域展開の一環として石川県庁、小松製作所、業界団体と連携し、「スマートエスイー IoT/AI 石川スクール」を開講している。
 - 石川県のものづくり産業に特化したカスタマイズを行い、毎年講座を実施している。
-

プログラムの横展開の事例（２）

：早稲田マーケティングカレッジ

- 本プログラムは、マーケティングを総合的に学ぶ講座であり、全80時間に及ぶ。
 - 一方で、特定のトピックをもっとコンパクトに学びたいというニーズも存在する。
 - そこで、「ブランド」「マーケティングリサーチ」など、プログラムを構成する一部のテーマだけに焦点を当てたコンパクトな講座を、本プログラムの講師が中心となって開講している。
-

無料オンラインコースへのプログラム提供の事例 ：スマートエスイー

- プログラムの認知向上、DX関連技術の普及啓発、DX人材育成の裾野拡大を目的に、無料オンライン講座（スマートエスイーgacco提供講座）を公開している。
 - 2023年度には9科目を一般公開し、合計約7,700名が受講した。
 - 通常のプログラムはPBLや修了制作を通じた実践学習が中心だが、gacco講座では座学部分のみを提供している。
 - そのため、gacco講座を受講して興味を持ち、より実践的な学びを深めたいと考えた方が、毎年数名、通常のプログラムに進んでいる。
-

企業などとの連携の利点

- 受講者である企業人の視点とニーズをプログラム設計に反映できる。
 - 企業や自治体などとの連携によって、プログラムの横展開の可能性が広がる。
 - PBLやワークショップなどの受講者参加型の講義に企業のリアルな課題を取り入れることが、実践力向上という側面での教育効果につながる。
 - 実務家講師の選定・依頼に企業人のネットワークを活用できる。
 - プログラムの広報に企業人のネットワークを活用できる。
-

まとめ

早稲田大学は創立直後から社会人教育に力を入れてきた。その精神を受け継ぎ、社会人が学び易いような様々なプログラムを提供している。

社会や産業のニーズに合致した教育プログラムを開発・運営するために、企業や団体とのコラボレーションが有効に機能すると考えられる。